

事務事業 No./名 称	■サービス部門 環境-25 深沢クリーンセンター管理運営事業										
	□支援部門										
主管課	深沢クリーンセンター					関連課 資源循環課・環境施設課					
分野名	生活環境										
目標 (目標値)	環境衛生保持のため、し尿及び浄化槽汚泥等を受入れ、適正に処理する。										
人口等の データ	データ区分	22年度			21年度			20年度			備 考
	人 口	177,161人			176,669人			176,484人			
	世 帯 数	78,812世帯			78,131世帯			77,430世帯			
	事業の対象者数										
運営資源 状 況	決算値(千円)	8,948千円			8,768千円			13,410千円			
	(国・県)										
	(負担金等)	22千円			37千円			34千円			
	(一般財源)	8,926千円			8,731千円			13,376千円			
	人員配置数	1.1人			1.1人			1.1人			
	人件費(千円)	9,257千円			9,541千円			9,666千円			
	協働の パートナー	委託・許可業者			委託・許可業者			委託・許可業者			
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	18,205千円			18,309千円			23,076千円			
	市民1人当 りの経費(円)	103円			104円			131円			
	対象者1人 当りの経費(円)										
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名										
指 標		評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(25年度)			
水道使用量の削減		◎	目標値	3,800m³	3,700m³	3,600m³	3,500m³	3,500m³			
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退			実績値	3,138m³	3,430m³						

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。				②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。			
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。				④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。			
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)				⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止			
深沢クリーンセンター管理運営事業	8,948千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	し尿の処理に係る施設、設備の維持管理								
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)									
H22年度の課題	・なし								
課題解決のための取組	・なし								
未解決の課題	・機械設備の維持修繕を優先したため、老朽化した建屋の修繕が実施できなかった。								
今後の方針	・一般廃棄物処理の性格から、適正かつ安定的な処理が必要。 ・今後は(23年度以降)、処理建屋を計画的に維持修繕していく。								
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	B	※ □事業完了	課長名	深沢クリーンセンター所長 遠藤 哲			

